

私の学生生活（動員）

山門郡大和町

武末 ツルヨ

昭和19年4月4日、大和国民学校で高等科生の入学式が行われた。山田校長先生の歓迎のお言葉と校訓を詳しく教えて頂き、私は高等科生の自覚に身を引き締めた。入学生は6学級に分れ、各受持の先生に引率され教室にはいった。私は1年5組横山先生だった。戦時下で衣料も切符制度で洋服など買えなくて、親の和服を解いて上着やモンペをつくってもらった。靴も下駄も少なく藁草履で出校していた。

春の清水山への遠足、それに運動会と楽しい学校生活も、戦争が激しくなり、1週間に2回、午後は筵（むしろ）屋（筵・叭・なわの集荷業者）に筵の耳取りに出た。戦地へ軍需品を送る梱包用の筵である。7月から学徒動員が始まった。そして腕章を付けた。腕章は齒車と稲穂と麦穂とペン先が描かれ、男子は青色（空色だったかも）、女子は濃い桃色であった。また、いつも綿の入った防空頭巾を肩からななめに掛けていた。それに学徒動員の歌も大いに歌われた。

『花は蕾の若櫻 五尺の命ひさげて 国の大事に準ずるは 我等学徒の面目ぞ ああ紅の血は燃ゆる。 後に続けと兄の声 今こそ筆も投げ打って 決意一たび火となれば 守る国土は絶壁で ああ紅の血は燃ゆる。』

学徒動員の組織は、1年生も2年生も各自出身の小学校の運動場へ行き朝礼を受け、自分の地区の出征家族戦死者の遺族へ農作業や、縄ないや筵の耳取りなど作業奉仕をした。週に2日は出校日で授業を受けたが、竹槍のけいこや、矢部川の河川敷の開墾地の野菜作りに大半は費やされた。秋の遠足は行軍と呼ばれ、1年生は久留米の陸軍基地だった。藁草履を履き、1足は帰りの物として持って、薄暗い早朝に出発した。途中何回も休憩し、昼近くに着いた。国のため尊い命を絶たれた英霊に深々と頭を下げてお参りした。帰り道で激しい雨に逢い、ぼとぼと草履を引きずり、程遠い駅（試験場前だと思う）へ行き、電車に乗って帰宅した。

2年生になって、動員は組別で行われ、私達2年5組は豊原小学校であった。毎日朝礼で東方を向き、宮城礼拝し、もとの姿勢に戻り、私が「信修」と言うと皆で、「私達は天皇陛下の赤子です。今日の務めに一生懸命励みます」

と唱える。それから先生は、学校からの連絡事項と空襲警報がなったら防空壕に入りなさいと毎日おしゃっていた。各地区への班定めは、通学団単位で定められた。私達21通学は（左胸に名札と21の番号を付けてた）野田地区だった。春の作業は苗代の準備の草取りをした。先生は毎日校区を一巡され、生徒に声を掛けて下さった。家の方は先生に頭を下げたお礼を言われてた。

出校日はあったけど、空襲警報で下校することもあった。校内は軍隊主義で、男子生徒全体を第1大隊、女子を第2大隊、2年生を第1中隊、1年生を第2中隊とし、私の組は第2大隊第1中隊第2小隊と変わった。午後の2時間は、高等科生全員の合同体操であった。私は壇上

の教官先生に小隊の人員報告の時、慣れぬ言葉に悩まされた。でも閲兵式や分列行進など気持ちの良い程きびきびと行われた。教室の壁には、「七生報国」や「欲しがりません勝つまでは」や、「国を思う心に二つはなかりけり、いくさのにはに立つもたたぬも」など書かれた紙が貼られた。また「海ゆかば」の歌詞も貼られ大いに歌った。

7月頃から空襲が激しくなり、雁爪を田に置いて走り帰り防空壕に入ったことが再三あった。8月に入って昼夜空襲に見舞われた。大牟田の昼の空襲の時は、空襲警報のサイレンと同時に敵機襲来である。いつものように水田に雁爪を押していた。私たち4人は里芋の葉陰に隠れた。無気味な音をたて頭上で旋回し、大牟田あたりで爆弾投下らしく凄じい爆音が響き身振りした。次に敵機が頭上に来たとたん、凄じい爆音と爆風で目を閉じた。しばらくして目を開けると「ああ怖かったね。死んだと思うた」と異口同音であった。その日私達が家に帰る道筋の下塩塚の田に、爆弾が落ち大きな穴があいていた。

夏休みも短縮され、8月10日の通告簿もらいは、分散して数箇所のお宮の境内で行なわれた。私達第2大隊第1中隊第2小隊は、下塩塚のお宮の境内であった。11日頃飛行機が通った後、ひらひらと紙片が降ってきた。宣伝ビラである。日本の地図と真中に左右にアメリカ人とロシヤ人が握手して足で日本を踏んでる絵であった。8月15日、ラジオで陛下の玉音を涙して聞き、私はア然とした。8月21日の2学期からは、落ち着いて勉強が出来た。しかし教科書は墨で塗らなければならない所もあった。前期の本の勉強も終り、後期の読本が間に合わず、前に卒業された人から借りて教わった。その中の「賢母の教え」という題があり、内容も文章もすごく良くて心に打たれ、何度も読み返し暗誦することが出来た。今でも野良で一人仕事をする時暗誦して、学生時代を懐しんでいる。

学徒動員で学業が遅れ、2学期3学期と猛勉強で、昭和21年3月17日卒業式を迎え、学校を巣立った。

今思うに戦時下の物資不足、食料不足、機械不足の中で育ったお陰で、体力もつき、辛抱強くもなり、品物を大切に使う心も培かわれたと思う。多くの戦死者には御冥福を念じてやみません。